

# ドイツ射撃団の規則にみる歴史的な変化

スウェン・ホルスト

## German Marksmen Societies in the 19th Century

Many German marksmen societies have a long tradition. But most societies were (re) established during the 19<sup>th</sup> century. Like many other societies or clubs they were an essential part of the social life of the 19<sup>th</sup> and the 20<sup>th</sup> century. Nevertheless there is not much research about marksmen societies, but a lot of books, pamphlets and homepages from the side of these societies itself. In this report, the author looks for rules of these associations to compare the rules of the 19<sup>th</sup> century and the rules of the 20<sup>th</sup> -21<sup>th</sup> century. By comparing the rules, one can see the changes from a pleasure organizing society to a shooting society, from a society focusing on local notabilities to a more equal society with a semi-professional management.

## 1. はじめに

### 1.1. ドイツの協会

ドイツの射撃団は中部、北部のドイツ人の社会生活において大きな意義を持っている。なぜならば、射撃団の行事は地方の自治体の社会生活の一つの柱となっているからである。しかも、射撃団は長い歴史と社会における重要性を保持している。とはいえ、その歴史認識、特にナチス時代の活躍に関しては疑問視されている。また、史料的な裏付けのない疑似伝統という問題もある。軍事的な意義を喪失した17世紀の射撃団は、有力階級の特権を維持する手段となっていた。新興の市民（教養市民、企業家）、中流階級の市民はこの特権を持たなかったため、税金でそれを支えていた。17世紀には多くの伝統的な射撃団が、これに参加できない市民からの要求と儉約を求める啓蒙的な行政の圧力によって解体された。その後、多くの射撃協会が19世紀以降に設立されたが、それらの団体は中世に活躍した射撃団が自分たちの射撃協会のルーツであると強調している。19世紀以降に設立された射撃協会はその正統的な伝統を強調するために、記念誌やインターネットに古い射撃規則を載せている。本論文においては、このような規則によって20世紀以前の射撃協会の発展と特徴を論じたい。

射撃団はいくつかの名称で呼ばれており、時代あるいは思想的背景によって名称が変化している。宗教的な意味で同胞団（Bruderschaft）という名称が使われているが、他にも中世からの伝統を主張したギルド（Gilde）という名称、市民的な意味で使われている社会・社団（Gesellschaft）という名称、団結を主張する協会（Verein）などの名称がある。法的な場面では社団法人と訳されることが多い。現在、法的な側面から見ると、ほとんどは協会である。射撃

団という名称が日本で定着しているが、本来的には「射手協会」がより適切な訳語である。

19世紀のドイツの社会生活や市民社会の構築のために教会が果たした役割が注目された。20世紀の70年代後半から80年代前半にこれに関する草分け的な研究があった。その第一人者と言えるのが歴史学者の T. ニッペルダイである<sup>1</sup>。それにもかかわらず、この分野の研究は少ないといわれている<sup>2</sup>。政治的な結社に関してはある程度注目されているが、射撃団についての研究はさらに少ない。

## 1.2. 射撃団の研究

それでも射撃団側の文献は多く、その文献の中で、射撃団側は射撃団の長い歴史と伝統、社会生活において大きな役割を果たしたことを強調している。協会の歴史を批判的に振り返ることは少ない。その賛美的な自画像に対して、研究者は射撃団とユダヤ人差別、右翼思想、ナチ時代の統制や順応主義が関連していることを明確にした研究も存在する<sup>3</sup>。

全体的に見ると、史料として会則、指令、通達、新聞記事、協会記録などがあるため、射撃団にはかなりの研究余地が存在している<sup>4</sup>。多くの協会に記念誌が存在するが、それらを比較した研究は少ない。比較研究により、ドイツ社会の重要な一部である地方の中流階級の動向を解明できる可能性がある。

## 1.3. 協会の会則の比較

この論文の目的は会則の比較により、社会の変化に関する要素を明らかにすることである。筆者は以前、ウェストファーレン地方にあるゲーセケ市の現在の会則と規定を紹介した<sup>5</sup>。その目的はある協会の構造と活動を紹介し、射撃団の特徴を伝えることにあった。ゲーセケ市の射撃団はそのホームページで2005年の会則と規定により構造と活動を詳しく明文化した。この射撃団は同じホームページに19世紀半ばの会則も記載している。それにより、150年間に亘る変化を確認できる。19世紀の会則では会則と規定が分かれておらず、2009年の規定では射撃祭の運営が会則に含まれている。最終的に19世紀の特徴が他の同時代の射撃団の会則にもみられるかどうかを調べて、ゲーセケ市射撃団の会則比較の結果が一般化できるかどうかを考える。

現在すべての協会の構造や活動は、市民法と協会が自ら定めた会則で決まっている。この規則により協会は法的な形で形成されているが、実際の協会生活には様々な仕来りや慣習がある。

- 
- 1 Nipperdey, Thomas (1976) Verein als soziale Struktur in Deutschland im späten 18. und frühen 19. Jahrhundert. In: ders., Gesellschaft, Kultur, Theorie. Gesammelte Aufsätze zur neueren Geschichte. Vandenhoeck & Ruprecht, p. 174-205
  - 2 Karstein, Uta (2013). Vereine. Soziologische Zugänge zu einem vernachlässigten Thema. In: sinnprovinz. kultursoziologische working papers Nr. 5, [www.sinnprovinz.uni-leipzig.de](http://www.sinnprovinz.uni-leipzig.de) ダウンロード2015.9.10
  - 3 Borgräwe, Henning (2010) Schützenvereine im Nationalsozialismus, Münster
  - 4 拙論 (2011)「ドイツ射撃団の評価」福岡女子大学文学部紀要『文芸と思想』第75号
  - 5 拙論 (2014)「史料紹介：ドイツ射撃団の構造と活動」福岡女子大学文学部紀要『国際社会研究』第3号

会則は現実の一部だけを写すものである。

会則により協会の活動目的や組織の構造、役職の権限がわかる。異なる時代の会則の比較によって、活動目的や組織の構造、役職の権限の変化が考察でき、協会の本質の変化も読みとれる。同時代の異なる協会の会則を比較して、ある協会の特徴あるいはその時代の特徴を明確にすることができる。

## 2. 法的な背景

まず、19世紀半ばと21世紀はじめの会則を比較する前に、当時、協会がどのような法的立場にあったのかを確認する。プロイセン王国には1794年に制定された「プロイセン一般ラント法」があった。その第2部第6章に「一般的会社、特に協会について」が定められている<sup>6</sup>。

第1条：会社とは共同の目的のため、数人の会員が結束したものである

第2条：社会的な利益に沿って、許可すべきである

第3条：公の平穏、治安、秩序に違反する行動は認めない、容認されない

第4条：国家が社会的利益に不利と考えたら、認可された会社を禁じることができる

この法律は結社を基本的に認めながら、国家に強い制限のための権限を残した。ただし、ライン川より西の地域は一時期、フランス帝国の領土であったので、フランスの民法典を残して、「ライン地方の法」とよばれた。1848年の市民革命により、新しいプロイセンの憲法が制定され、そこで

第27条 すべてのプロイセン人は行政の許可なく、平和的に室内に集まる権利を有する。

この規定は野外の集会には該当しない。それは法律で決められる。この法律の制定までは、野外での集会は24時間前に警察署に届けなければならない。公の治安と秩序を乱せば、警察がそれを禁止すべきである。

第28条 すべてのプロイセン人は刑法に違反しない限り、結社を組む権利がある。

王権が安定を取り戻したあと、この憲法の条文は、当時第29条と第30条となり、また、制限が加えられた。

第29条と第30条に関して法的な自由と秩序を乱す集合と結社の権利の悪用に対する  
1850年3月11日の指令

---

6 koeblergerhard.de/Fontes/ALR2fuerdiepreussischenStaaten1794Teil2.htm ダウンロード2016.9.18

ライン地方外のプロイセン王国での協会の運用に関する法令は、基本的に世紀末まで「プロイセン一般ラント法」に従っていた。

(第11条 - 第21条 許可された会社の権利)

(第22条 - 第24条 特権会社)

〈協会〉

第24条：国家に許可された、継続的な公益のために結合した協会だけが協会の権利を行使できる

第25条：協会の構造と権利は設立時に結ばれた契約、基金設立証明書、国家からえた特権証明書、そして国家からの許可手続き中に言い渡された決定により判断すべきである

① それらの基礎的構造

第27条：そのように決定された協会と会員の権利と義務、そして共通の要件の運営のために定めた設備はその協会の基本構造になる

第28条：目的に決められたものと目的達成に欠かせないものはその基礎的構造の一部である。

第29条：基礎的構造は協会を解体するだけで改定・停止することができる

第30条：協会はそれ以外の規約を国家の許可なく替えることができない。

第31条：このような変更は過半数で決めた協会決定と国家の許可で変えるかどうかを以下のルールに従って判断する。

第32条：不明な部分は一般の法律や契約の基準によって判断する。

第33条：国家の法律に反しないかぎり、その判断には当該協会の慣習も十分に配慮する

第34条：このような不明な部分に関して補足をするときは、国家の認可が必要である

第35条：この決断ができない、あるいはその問題が第三者に係わる場合、決定の権利は完全に国家に属する。

第36条：このような補足によって第三者の権利が侵害されたら、司法的判断を傾聴しなければならない。

第37条：新入会員は協会の規約に従わなければならない。

② 内部の権利

第42条：各会員は協会の目的達成に協力しなければならない。

第43条：協会は目的に違反する会員を退会させる権利がある。

第44条：協会はこの権利を国家の管理の下、法律に従って実行できる。

第45条：国家からその権利を与えられた範囲でしか、協会は会員に対して刑罰を与えることができない。

第46条：その場合、協会は組織内の刑罰に対して、一般の法律に定めた秩序と手続きを守らなければならない。

第47条：協会内の刑罰に対しては裁判所に訴えることができる。

第48条：協会は国家への報告とその許可に基づいて新しい会員を入会させることができる。

第49条：国家が協会に与えた権利は旧会員と新会員が同等に行使できる。

第50条：協会全体、法人として与えた権利を会員1人が個人的に行使することはできない。

会議と議決

第51条：協会内部の事項は会員の会議と議決で決める。

第52条：日常的な事項とそのために設置した会議に出席した会員は人数に関係なく決めることができる。

第53条：会則に定めていない非日常的な要件については、会員全員を徴集しなければならない。

第54条：徴集の連絡に議決すべき要件が明記されていれば、出席した会員数に関係なく、議決できる。

第55条：このような明記が行われなかった場合、会員の三分の二が出席しないと議決できない。

第56条：確かな方法で徴集が行われなかった場合や、第55条に定めた人数が集まらなかった場合、議決は無効である。

(第57条 - 第60条 外に引越した会員への連絡と総会への代理人)

第61条：協会の要件は過半数で議決する。

第62条：同数得票の場合、決定権は議決を認定する行政機関が持つ。

(第64条 - 第69条 会則の新しい項目)

(第70条 - 第72条 財産管理)

(第73条 - 第80条 基金)

(第81条 - 第90条 法人としての協会)

(第91条 - 第113条 協会の借金)

〈代表〉

第114条：協会の権利を1人の代表者に与えることができる。

第115条：代表の設置を基金規則と法律に定めていない場合、特別総会で決めなければならない。

第118条：その設置に三分の二が賛成しなければならない。その代表者を決めるには過半数の賛成で足りる。

第117条：協会の代表者は協会の権利を行使することができ、協会外部との折衝を行う。

第118条：代表者はこのような行動を会員と相談せずに行うことができる。

第119条：協会の不動産の売買と借金、会費の変更には会員の賛成を必要とする。

(第120条 - 第130条 代表者の権限制限)

(第131条 - 第136条 代表者の会員に対する報告義務、代表者と協会の関係)

〈主席〉

第137条：協会には少なくとも1人の主席がいる。

第138条：一人もしくは複数の主席は会則に定めがなければ、議決で決める。

第139条：主席を選ぶ権利は協会に属する。

第140条：その議決には会員全員が徴集された特別総会での議決が必要である。

第141条：協会の主席は協会を正当に運営する権利と義務がある。

第142条：主席の役割は議事を徴集する、議長を務める、議題、得票確認、結果のまとめである。



第143条：主席は設立会則と国家の法律に違反しないように特に注意することが求められる。

第144条：主席は協会の従業員を指揮する。

(第147条 - 176条 役人 (協会の雇われ管理者))

(第177条 - 181条 期間)

(第182条 - 188条 会員の退会)

(第189条 - 202条 協会の取消)

上記の項目には現在でも協会法に存在しているような方針もある。しかし当時、進歩的な方針に対して保守派の権力が行政による監視・認可を強化した。運営に関する代表者、主席、雇われた事務局には触れられているが、理事会という機関には触れられていない。協会に関しては代表者と主席が多くの場合一致するが、本来二つの役職は異なったものである。例えば第139条は今では当たり前であるが、ナチ時代には「協会の指導者」は上の組織により任命されていたので、当時やその後でも議論すべき余地が多々あった。

1896年に民法典が布告され、1900年に施行された。1908年により詳しい帝国社団法が制定された。民法典と帝国社団法にも保安的理由での解会が盛込まれていた。1964年、この社団法が改定された。

### 3. 19世紀の射撃団の会則

#### 3.1. ゲーセケ市射撃団の変容

ゲーセケ市の射撃同胞団のホームページには、歴史についての詳しい記載がある。19世紀半ばの会則と現在の会則とその行事を説明する射手規約が記載されている。一方的な情報に従うのは危険であるが、以下の理由により信用できると判断した。まず、射撃団は長い歴史を強調する傾向がある。しかし、ゲーセケ市の射撃同胞団は歴史的に継続していないことが明記されている。この点で、美化の傾向が少ないと判断できる。また、射撃団は一般にナチ時代の歴史を無視する傾向がみられる。しかし、当該同胞団に関してはナチ時代だけではなく、19世紀射撃団における反ユダヤ人的感情にも触れられている。つまり、射撃団の汚点を隠すことなく、できるだけ正確にその歴史を伝えたいという姿勢があると判断できる。

ゲーセケ市の射撃団は1770年までは限定された裕福な市民による市営の組織であったが、1777年に私立の射撃協会の形で再興された。しかし、フランス占領と解放戦争、プロイセン王国への偏入という混乱の中、この射撃協会は1808年に廃止された。プロイセンの行政は伝統を尊重するという観点で射撃祭の再興を呼びかけたが<sup>7</sup>、その運営については厳重に監視した。その後、射撃協会は1830年に再興された。1900年に制定された民法の協会法に合わせ、会則が若干調整され、この会則をもって、裁判所で協会目録に登録した。1930年の拡大により調整と理事会員の役

---

7 州長フォン・フィンケ。同じくプロイセンの配下に入ったケルン市のカーニバルの改良を促したこともプロイセンの役人であった。

割の具体化を行った。ナチ時代になると射撃祭の運営が難しくなった。射撃協会は選帝侯国サウアーランドの射撃連合に入会した。この連合は故郷の伝統を守る、愛国心を養う、国民共同体を掲げたので、ナチ政権が容認する可能性が高かった。しかし、カトリック教会に近い射撃連合は1936年に強制的に解体された。1934年の選帝侯国サウアーランドの射撃連合への入会により、会則が変更された。理事会と総会に変わって「総統制」が導入された。総括組織に任命された指導者が配下の役人を任命する制度であった。しかし、1937年、すべての射撃協会が帝国射撃連合に編入された。結局、ゲーセケ射撃協会は1937年4月24日にドイツ帝国射撃連合の統一会則を受け入れた。そして、軍事訓練のために射撃指導者を導入した。この組織に入っていたため、戦後、イギリス占領軍に軍事集団として禁止措置を受けた。この禁止措置を覆すために二つの道が示された。一つはカトリック協会に射撃協会の財産を渡し、カトリック協会の同胞団としてその財産を利用する方法であった。もう一つの道はウェストファーレン郷土文化保護連合に入ることであった。1947年、会員たちは同胞団と成ることに決めた。1948年、そのカトリック射撃団連合の規則に沿う会則を作り、カトリック教会の射撃連合に入会した。1949年には裁判所の協会目録に登録した。わずかな変更はあったが、この会則が基本的に現在の会則である。

### 3.2. ゲーセケ射撃協会1859年の会則

まず、ゲーセケ射撃協会1859年の会則の概要として、各条文の内容を表すタイトルを付けて、括弧で2005年の会則の中から比較となる条番号を記載する。

発行の機会（第1条）

認可（第2条：登録）

モットー（第2条：旗色と紋章）

第1条 教会の目的と性格（第4章）

第2条 入会（第5条）

第3条 入会から排除（第5条）

第4条 士官（第8条）

第5条 会員の投票権（第9条）

第6条 理事会選挙の手続き（第9条）

第7条 士官役不請負

第8条 理事会の構成員（第8条）

第9条 幹部会（第7条）

第10条 理事会の役割（第8条）

第11条 祭り開催の心得

第12条 調達

第13条 会計係の報告会（第13条）

第14条 場所大尉の心得

- 第15条 会員、規約にサインしなければならない
- 第16条 入会料
- 第17条 制服義務（規定）
- 第18条 参加義務（規定）
- 第19条 参加義務免除（規定）
- 第20条 無断欠勤の罰則
- 第21条 除外の理由（第6条：退会）
- 第22条 除外された者の再入会（第6条）
- 第23条 （解散の場合）協会の財産（第19条：解散）
- 第24条 祭り規定：制服
- 第25条 祭り規定：時期と長さ
- 第26条 祭り規定：出動
- 第27条 祭り規定：射撃
- 第28条 祭りの規定：王冠の王・射撃王
- 第29条 祭りの規定：銃の質と扱い
- 第30条 祭りの規定：王たちの賞品
- 第31条 祭りの規定：女王の選び方
- 第32条 祭りの規定：王たちの任命式
- 第33条 祭りの規定：初日に女王を迎え、舞踏会
- 第34条 祭りの規定：2日目、3日目の女王を迎え、舞踏会
- 第35条 祭りの規定：舞踏
- 第36条 祭りの規定：平穏維持
- 第37条 旧規約無効化（第20条）
- 第38条 規約改定（第20条）

認可条件 1859年：祭り2日、第28条に郡長の許可が必要

許可女権取消 1860年

協会録に登録 1900年2月24日

追記：言葉直し、理事会・総会の徴集方法、議事録に理事たちのサイン、（民法対応）退会者とその遺族の権利放棄

書名：市長

1930年改定

1930年補足：制服、士官・下士官の役割、幕僚、女官、踊り、聖体祭行列の護衛、葬送

この資料は1859年の会則だけではなく1930年までの会則変更も含まれている。1930年の会則と言われてもよいが、1859年の会則の部分が変わらず残っているので、19世紀半ばの会則と21世紀の会則を比較することができる。



### 3.3. 1859年の会則と2005年の会則、及び射手規約との比較

1859年の会則<sup>8</sup>の冒頭では法的な手続きが説明され、2005年の会則<sup>9</sup>では伝統が強調されている。前者と後者には共に認可と登録が明記されている。1859年の会則はリップシュタット王政郡府が認可したが、1900年の民法導入によってリップシュタット区裁判所での登録が求められた。

#### 第1条 教会の目的と性格

射撃団の主な目的は：

- 1) 品行方正、かつできるだけ手頃な市民の娯楽
- 2) ゲーセケ市民と住民の間の連帯感・秩序・名誉意識を呼び起こし、それを高める。
- 3) 全体的に国家と教会の規則に従う

そのうえで

- 4) 祭りは数百年前からキリスト教的な性格を保持している。その性格は1596年に遡る協会の年報から読みとれる。また射撃王と王冠の王が1501年のキリスト教の名言、シンボルが刻まれた銀のプレートに飾られている。そのほか、祭りはキリスト教の祝いではじまり、祭りの間、不幸な事故が起こらず、平穩に祭りが運営でき、皆がいつまでも楽しくこの祭りを思い出せるように神に祈る。

組織の歴史は19世紀において、16世紀まで遡るように記載されているが、20世紀に同胞団の伝統を強調し、15世紀を協会の名称に取り入れた。19世紀後半から歴史に対する意識が変わり、古い伝統を持つことが協会の名誉となった。地方都市でも教養を持つ市民の数が増え、彼らが郷土史の研究を進め、古い史料の中に「射手」が記載されているとそれを組織のルーツとした。

21世紀の規約と比べて、19世紀は宗教色が薄かった。宗教色は「伝統」の一部であり、カトリック的な言い方を使わず、「ミサ」は抽象的な「キリスト教の祝い」と説明された。カトリック派のゲーセケ市民はプロテスタントであったプロイセンの役人のために啓蒙主義的な勤勉で大人しく、従順な「良民」を目指すように書かれた。

入会申請は昔から現在まで理事会が決定している。入会年齢は17歳から16歳（14歳）に下げられた。入会は男性に限定されている。19世紀には住民とその息子と書かれていたが、協会は門戸を一時的にそこに住む人や外部の人にも開いた。狭い意味の市民、いわゆる市民権を所持する限られた住民とされていたのは家長的な制度の名残であろう。入会条件は19世紀により厳しく明文化された。

協会の目的に賛同し、団結と隣人愛、礼儀、そして良好な秩序に危険を及ぼしたり、妨げたりしなければ受け入れられる。したがって、喧嘩っぽいあるいは酒好きとして知られ

8 これから各射撃協会に関する史料を論文の末に記載している。

9 拙論（2014）「史料紹介：ドイツ射撃団の構造と活動」福岡女子大学国際文理学部紀要『国際社会研究』第3号

た人、ほかに下品で乱れた生活を送る人、あるいは不名誉な犯罪によって入会させる価値がない人、不名誉な犯罪のためにまだ調査中の人の入会は認められない。(第2条)

会員のほかに「祭り仲間」というカテゴリーができており、そこには外部の者と制服が購入できない貧しい住民が含まれている。

第3条 排除された者で祭りに参加したい地元住民はすべて、入会しなければならない。一般向きの祭りの開催のため、誠実であり、祭りの趣旨に賛同すれば、一時的にここに滞在する人、また、射手の衣装が購入できない人でも、「祭り仲間」(Festge nossen)としての入場を認める。

理事会は士官20人、選挙で選ばれた14人の経験を積んだ会員と幹部(少佐と2つの部隊の大尉2人)から構成された。(第4条)

部隊の増加で士官が増え、そのほかに記録係、メディア係、監査の役職が設置され、会計係と会場少佐が1人から2人に増やされた。スポーツとしての射撃の面が大幅に強化されたので、射撃師の役職が設置され、各中隊にも射撃担当の士官が設置された。20世紀後半から青年部が設立されたので、青年部の射撃師もできた。20世紀後半には名誉会員も作られ、市教会の神父が「主席」として理事会員となった。19世紀に神父と学校の教員は町の名誉ある教養人であったため、無料で入場できた。ただし、20世紀になると教養人が増え、教員の権威が下がったので、教員の特権が排除された。

誠実なキリスト教の会員が理事会を選ぶことができる。「キリスト教の会員」という文言はユダヤ人排除の意志を示している。犯罪で調査されている会員は投票ができなかった。(第5条) 19世紀には投票方式であったが、2005年には基本的に挙手方式となった。ただし、より身近な部隊士官の戦況は投票方式である。今は再任が可能であるが、会計官だけは2回に制限されている。幕僚の選挙は毎年行われている。幕僚以外の理事たち(委員会)の任期は3年間である。

2005年においても幹部と理事会の任期は3年間とされている。19世紀の総会は祭りの8日後であったが、2005年の会則で1月となった。(第6条)

19世紀には会長は少佐程度であった(第8条)が、20世紀の区分化や他の射撃団との交流の中で同胞団会長が大佐となり、副会長は少佐、事務局長は大尉となった。

会長は議長である。理事長と2人の副理事長が外部に対する協会の代表である。しかし決定権は拡大理事会に属する。理事長(または副理事長)と共に担当の委員が注文等にサインしなければならない。幹部三人が祭りを開催し順番や飲み物の選択を担当する(祭りの飲み物の試飲)。20世紀に幹部の権限が拡大し、理事会は顧問的な役割があり、最終的に総会に決定権があった。第9条「幹部は、必要な下士官を選出する。幹部は協会の体外的な代表であり、幹部はその代表として行政や個人との交渉、文章のやり取り、理事会が決めた申合せと契約の実行、理事会の決定の執行、必要な支払を指示しなければならない。ただし、各指示には、この目的

のために選出された委員の署名が必要である。納品また履行に関する請求書は、特別監督または納品の担当が証明したうえで指示すべきである。」

理事会（幕僚）は祭りのワインを試飲する。本来、質の確認のため、幕僚が飲んだワインを封印し、保管しなければならない。ワインの質に疑義がある場合、封印したワインでないと飲み比べができない。19世紀半ばには飲み物と食事を試すと書かれていた。（第9条）1930年にワインの試飲に限定され、2005年には品質保証ではなく、飲み物メニューのお勧めをするようになった。19世紀半ばには食品と飲料全体の質が危うかったが、20世紀前半には遠方の高価なワインだけを確認したと思われる。

19世紀には女王だけが決められたが、1930年には女官は12人という人数が決められた。2005年も12人のままである。1930年に前の女王は女官に入ったほうが良いと記載されていたが、2005年には基本的には入らないと決められた。補欠の候補者がいたほうが良いと記載されているので、選ぶのが難しく、辞退する人もたまに出たとも読み取れる。

理事会はこの会則に記載されていないかぎり協会のすべての事務を決定する。理事の半数が出席する場合は定数に達している。理事会は財産の管理、道具の管理の他に修復を担当し、投票権を持っている会員録の管理、地下室のワイン蔵の担当の任命（その人1人だけが地下室に入ることができる）を行う。理事会は毎年、支払われる祭り会場の入場料、そして「祭り仲間」が支払う料金を決める。すべての決定は会録に記入しなければならない。（第10条）

会計係は正確な支払処理のために、私財で保証しなければならない。また、会計係は理事会で承認される。19世紀には、毎年の会費が祭りに関係していた。会費で祭りの開催費を負担する形をとった。（第16条）21世紀には協会の運営のための会費と位置づけられた。19世紀には入会料が求められた。経済的な理由で入会できない人もかなりいたようである。制服は当時の礼服に近い高帽子、黒燕尾服であったが、所持できない人たちもいた。そのため「祭り仲間」として出ることはできたが、このような条件では、参加できる労働者も少なかったであろう。（第13条）

制服や練習、パレード参加など、厳しい義務があり、罰金から追放までの処分が課せられた。2005年にはそうした厳しさはみられない。会員個人の権限が尊重され、結束力が低下したともいえる。（第17条と第18条）2005年の会則により、祭日に戦没者の慰霊行事が行われた。19世紀のなかばには、徴兵制が浸透しておらず、世界大戦のような戦没者はいなかったと思われる。1930年には軍人会（Kriegerverein）があったので、射撃協会はそれに係わりがなかった。第二次世界大戦後、軍人会が長い間、再興できなかったのも、射撃同胞団がその役を引き受けた。

ゲーセケ射撃団の衣装（制服）はほとんど変わっていなかった。19世紀に礼服と考えられていた衣装が今でも同胞団の制服である。ドイツにある多くの射撃団が猟師の緑の服を制服として選んだ状況のなか、ゲーセケ市の射撃団はより非軍事的な礼服を維持している。ファッション

ンの変化により、一般の礼服から見ると、異例な出立が細かいところで見られる。1930年の補足で「帽子」が「シルクハット」に書き換えられた。19世紀半ばに「帽子」と言うとシルクハットを指すことが当たり前であったが、20世紀前半には「帽子」のイメージが変わったので、会則に明確にシルクハットと書かなければならなかった。

舞踏会の許可が2日間だけであれば、初日は舞踏会ではなく、コンサートがある。それで3日間の祭りができるが、ある市長が初日に射撃があるので、2日間の許可に違反していると否定したこともある。19世紀には参加義務が厳しかった。欠席の場合、欠席者は14日前に会長に連絡し、理事会がその理由を認めるかどうかを審議する。違反の場合、罰金が科せられた。(第19条) 無断欠席が多ければ、除籍された。(第20条) 19世紀には退会理由が細かく記載されていたが、20世紀になると抽象的に「同胞団の目的に違反する行為」と記載されるようになった。具体的に会費未払いに関しては両契約に記載がある。前者は1回の申告、後者は2回の申告が求められた。(第21条) 後者には退会勧告された側が反論する機会、除籍勧告をチェックする機能が盛り込まれた。

除籍されるのは悪い行動によって会員にとどまる価値がない人である。協会から指摘されるべきである。そのような会員の除籍に関しては、第2条と同じ手続きに従う。追放の理由は以下の通りである。

1. 上司の命令に対する不服。
2. 銃を扱う際の甚だしい不注意。
3. 祝祭の際の他の会員への侮辱、喧嘩や不和、争論、酩酊、下品な振る舞い。
4. 一度目の催促後の、会費の未払い。
5. 盗難、詐欺またはその他の不名誉な犯罪行為による有罪判決。
6. 他の公的に不快感を起こさせる生活態度。
7. 伝染病に罹っていることを認識している中での、祭りへの参加。
8. 会員がビールや他の協会の備品を持ち去った場合。(第21条)

第7項はコレラのような疫病が流行った19世紀には切実な問題であった。ただし、19世紀には除籍された会員の再入会について触れられていた。そのため経済的な理由等で支払ができなかった人の再入会の道が開かれていた。協会解散の時、歴史的なものを保管し、他の物は売って、残りの金額を15年間、貯金しなければならない。この15年間の間に射撃団が再興されなかったら、そのお金は市の社会福祉的な目的(19世紀：貧困者の病院)のために使われる。(第23条) 20世紀には3教会の教団と市がその金を管理する。15年後には教会のために使うこともできる。

前日の準備：音楽を備えて、鳥をつけた。それで帰営合図を行う。今は事務局長と場所少佐がそれを担当し、より簡略化して行われている。19世紀には女王をミサの後に迎えた(第24条)が、今はミサの前に中隊が女王の家に行進し、彼女を迎えて、教会に進む。

行政の方針に従って祭りの基本的な長さは2日であったが、協会の人々が3日間を望んだため、例外的な可能性について書き込んだ。(第25条) 準備に手間と費用がかかるため、2日に裏方のスタッフが祭りに出られず、楽しむことができなかった。しかし、認可の際、郡長が3日間という文言に反対した。だが、1か月後、元の文言がまた有効になった。今回、郡長は3日間という文言に絶対的な反対はしなかったが、ただゲーセケ市の人口はそれほど多くないので、2日間で十分だと決められた。

開催日時は農業暦に合わせた。穀物収穫の前の一休みの時期であった。20世紀からは7月の第1土曜日になっている。基本的に時間があり、夏休みに多くの人が旅行に出かける前にするように配慮されたと言える。

長い間二人の王がいた。1人目の王が鳥(いたからできた鷺)の王冠を射ち落した射手になった。射撃は19世紀には外で行われた。安全な射撃のため、順番が決まっており、部隊が交代に射って、大尉たちがそれを見守った。(第27条) 二人目、言わば本格的な射撃王が鳥の最後の部分を射ち落した。(第28条) 1966年からは三人目の王「的前の王」が出来た。1999年からは「生徒の王子」が存在している。少佐は射手が銃を安全に扱うように監視した。(第30条) 20世紀半ば以降、スポーツ射撃が重要となってからは、射撃師がこのような技能の面を重視した。

鳥の王冠、またはその最後の部分を射ち落とした者が、王冠の王である。鳥の最後の部分を撃つものは誰でも射撃王である。疑わしい場合、例えば二つの射位から同時に撃たれた場合(それは極力避けるべきである)、射手の二人の間で籤により決めなければならない。王位の権利がない人、射手録にその時、出番がない人が鳥を射ち落したら、本来、出番である人がいつでも撃つ権利がある。王位の権利がある人と権利のない人が同時に打ち落としても、権利がある人と他の部隊の出番の人がもう一度王権のために撃たなければならない。このような不正を生じさせた会員は追放することができる。(第28条)

この項目を見れば、実際にはかなりの混乱が生じたことがあったと想像できる。前年の王たちのあとに会長が撃ち、その後に射手録に従って射撃する。鳥の王冠が射ち落されたら、射手録に乗っていない会員も撃つことができた。鳥が落ちそうになったら、大尉はまた射手録に乗っている射手だけに撃たせた。射手録の説明がないが、王位の権利がある会員だけが載ったりリストである。そのため王位に相応しい人が王に成るようにすることができた。王になるには経済的な負担があったので、経済力がある人が選別されたのであろう。射撃を監視する担当である大尉は整理する際、苦勞したと思われる。

一つの大きな変化が1930年の補足に現れた構造改革である第3番目の部隊の設立である。20世紀の20年代半ばによりやく第一次世界大戦後の混乱を乗り越えて、射撃団がブームになった。ゲーセケ市の射撃協会も会員が増え、第3番目の部隊が設立され、伝統的な町の区域にあわせて、部隊が編制された。それで各部隊が町区域のコミュニティの核となって、独自の活動や掛け声が生まれている。2005年には同胞師と幹部が盟主に近い存在のようになり、各部隊の独自



性が増してきた。1930年の改定が導入され、会員増加の為に1926年に第3中隊が設立された。許可は2箇所から出された。野外の活動（パレードと射撃）は警察署が許可し、舞踏会は郡長が許可した。こうしたズレから、協会と市長の対立があった。（第33条）

19世紀には理事会は会則を換えることができた（第38条）が、20世紀に入ると、民法により会則の変更を届け出なければならなかった。2005年になると総会の75%の賛成が必要となった。1859年には二人の王が先頭に署名し、27人の理事がその後にサインした。2005年には幹部（第1同胞師である大佐、第2同胞師である少佐、事務局長である大尉）がサインした。これは王たちの役割の変化と幹部会への権限集中を物語っている。1900年、登録のきっかけに行う言葉等の訂正に27人の理事たちがサインした。王たちのサインがなかったので、この時から既に王たちの役割が低下していると指摘できる。

射撃祭の日の葬儀には射撃団が葬送に参加する。それ以外、葬送への参加は特別に協会のために尽力した会員の葬儀だけに限定される。現役の理事の葬儀には理事会が参加した。（1930補足）それに代わって、すべての現役の会員の葬儀には同胞団の代表的な部隊が参加した。射撃祭の日のミサの他に断食の第2日曜日にはミサの後に公演がある。誓約日行進に23人、聖体祭行進に23人、マリア行進に旗と士官2人、以前は聖シリアク（教会の守護聖人）の行進があり、8人の士官が参加したが、現在、ミサに1つの旗と2人の士官が参加している。1月20日の聖セバスティアンの日には同胞団の守護聖人のために特別なミサを行い、幕僚と理事会が参加するが、一般会員の出席も促している。

以上のように1930年より宗教的な活動が多くなっている。

19世紀には帰営式に11人の射手が参加し、伴奏者も同行した。射撃場から、少佐と王、女王、王冠の王の家を巡回した。王たちから射手と音楽隊にビールとタバコが振る舞われた。「それ以上の出費は禁止である。」と書かれ、王たちの盛大な持て成しの義務に制限がかけられた。2005年には「伝統的に」17人だと書かれていた。参加者に王、女王、王冠の王、帰営式指導士官（各自四分の一）から飲食が提供された。帰営式の対象に主席（神父）、名誉会長、市の代表が新しく含まれるようになった。

1930年に「長い踊り」として、一つのダンスに触れられている。2005年にそれ以外の3つのダンスについて説明された。以前、「踊り」は一般的な民族踊りの中から自由に選択された。このような踊りは一般的に認識され、21世紀には珍しい民芸伝承になった。

### 3.4. 19世紀になかった項目

協会が拡大し、3部隊になってから、各地区が日常活動の中心となった。（新第10条）この部隊が地域的な社交活動の核となった。

評議委員会（名誉議会）は19世紀にはなかった。20世紀後半に会員の権利が増えたので、除名の時に、理事会と違う議会が設立された。（新第11条）

祭りとして1930年の補足で聖体祭の行列が挙げられた。2005年にはその他に教会開基祭、守護聖人であるセバスティアンの祝日の懇親会が挙げられた。（新第14条）



20世紀に青年部を新しく加えた。(新第16条) 19世紀にはスポーツ面の項目がなく、軍備の観点もまだなかった。実際、1879-90年の間に射撃場が建設されたが、それ以前には定期的な射撃はなかったであろう。しかし、農民が多かったので、狩の機会はあったと思われる。ナチ時代には国民の再軍備との関連で射撃訓練の観点が強調された。

故郷の伝統の観点もなかった。20世紀にこの伝統が危うくなったので、それを維持しようとしたのであろう。ナチ時代初期、ゲーセケの射撃団はカトリック教会の射撃連盟(宗教活動中心)や、ナチ党のスポーツ連盟(スポーツまたは軍備中心)ではなく、故郷伝統保持連盟に加盟した。(新第17条)

21世紀には射撃団の社会福祉活動のための基金がある。宗教色の強い団体として社会貢献を果たす団体のイメージが作られている(新第18条)。

#### 4. 他の射撃団との比較

他の射撃団においても、ゲーセケ市の射撃同胞団と同じく19世紀の会則がネット上や射撃団の書物に残っている。19世紀の会則全部を記載している協会もあるが、部分的にしか記載していない協会もあり、その場合、部分的な引用やまとめて19世紀の会則を説明している。戦前の史料が残っていない協会も多く、ホームページには近年及び最近の状況と活動しか記載していない協会が主流である。しかしながら、本論文で調査した協会の内、56の射撃団あるいは国の見本会則がその歴史に触れていた。その中、13の射撃団は会則を完全に記載しており、残りは記載の詳細さが異なっている。調査対象となった射撃団の過半数は、すでに比較したゲーセケ市と同じウェストファーレン州(当時プロイセン王国)、隣のライン地方(同じくカトリック地域として1815年、プロイセン王国の支配下になった)の射撃団である。比較のためにブランデンブルク州から2つ、シュレーシエン州から1つ、バイエルン王国から5つ、ヘッセン・ダルムシュタット大公国から1つ、選帝侯国ヘッセン・カッセルから1つ、それぞれ例をあげる。

当時の国は射撃団の有様に大きな影響を及ぼした。バイエルン王国は18世末と19世紀半ばに射撃会則の見本を定めることによって、積極的に射撃団の構成に乗りだした。ウェストファーレン州知事が射撃習慣・射撃祭の再興あるいは設立を呼び掛けて、郡長に射撃の状況を調査させた。しかし、選帝侯国ヘッセン・カッセルでは射撃団が禁止されており、射手は全国の射撃祭に参加するために密かに出国しなければならなかった<sup>10</sup>。以後、上に述べた三点を中心に会則を比較する。それ以外に、ゲーセケの射撃団に欠けたところも補足したい。見本となる会則の存在や都市と地方との地域差、プロイセン以外のドイツ連邦の国ごとに異なる法律制定時期により、流行が変化している。

---

10 Bettenhausen

## 4.1. 目的

多くの会則には1つの目的だけではなく、複数の目的が記載されている。しかし、そのなかで強調されている目的もある。

### 4.1.1. 社交

最も多く記載されている目的は社交の促進であった。州知事 von Vincke は射撃祭を通して「市民の間に、友好的な共同体と同胞間の調和を促進する」ためにその祭りを再興することを促した<sup>11</sup>。教会が同胞団を宗教活動を中心とする組織に変えたとき、同じメンバーで祭り開催の別の組織が構築された<sup>12</sup>。多くの場合、開基祭に射撃的な行為が行われた<sup>13</sup>。

1857年には開基祭の代わりに射撃祭を開催するよう提案された。「目的は身分による格差がない礼儀正しい、陽気な祭りの開催であった。」<sup>14</sup>その記述により、町村の教会の開基祭が閉鎖的で、身分の隔たりがあったことがわかる。しかし他のところでも「本当の連帯感」<sup>15</sup>がもたらされた。「互いの身分を近付け、同朋愛を起こし、公的な場、私的な場での公共心を促進し、それを固める。」<sup>16</sup>

1808年に教区の再編によって、今までの教会とその射撃団から独立する動きがあった。1867年、若手の射手の会が設立された。他の射撃会には既婚男性だけが入会できた<sup>17</sup>。この例には教区のこだわりが示されている。既婚男性に対して若者が娯楽で参加する権利を求めて、認められなかった場合に独自の組織を作ったのである<sup>18</sup>。

皇帝の下、民族統合の民族祭りが言われたように、20世紀初頭には社交の要求と政治的な目的を融合させるものができた<sup>19</sup>。

### 4.1.2. 宗教的・文化的

ゲーセケ市の射撃協会の会則における19世紀から21世紀への変化をまとめると、特に次の三点を結果として明記したい。

一つ目はこの団体の宗教色の強化である。一般的には世俗化したと思われるのに、驚くべき結果である。理由としていくつかの仮説が考えられる。

1) 非宗教的なナチ時代への反発として教会側に付いた。ナチ党は国民を全体的に、生涯のすべての段階で掌握することを目指した。この要求が同じ方針を貫く外国に本山を持つカトリッ

11 Wülfter, Amtsblatt vom 27. September 1816

12 Düren-Arnoldsweiler, Breberen

13 Oberforstbach, Schleckheim, Merzenich

14 Ramsbeck

15 Schleckheim

16 Olpe

17 Breberen, Kreuzau

18 Dülmen

19 Serkenrode (1907年)

ク教会とぶつかって、対立した。戦後のドイツ人にとって教会は平和的で、かつて伝統的なドイツのイメージとなっていた。

2) 第2次世界大戦後の占領軍により、射撃を禁止され、そのため射撃協会を教会所属の団体として再開して、その禁止を交わす対策とした。

3) 19世紀のプロイセン行政によるカトリックの慣習に対する風当たりは強かった。それを理解した地元の申請者は教会とのつながりに余り触れないようにした。

4) 当然、教会の習慣であると考えられていたが、射撃祭だけは許可が必要であった。会則は行政対策としてのものだった。

5) 19世紀の人々は教会の存在と生活への影響を当たり前と考えており、遊び目的で射撃祭を設立した。20世紀の世俗化により、教会と日常生活・遊びが徐々に離れたので、会則に明文化しなければならなかった。

出発点はカトリック地区のゲーセケの同胞団であったので、同じプロテスタント国家であったプロイセン王国の支配下に置かれたカトリックの自治体・射撃団を調べてみた。すると、カトリック教会の行事に参加し、同胞団所属の亡くなった仲間のためにミサを開催していた<sup>20</sup>。また、それ以外に福祉活動も行っていた<sup>21</sup>。政治的な意味合いを含んだ目的もあった。「キリスト教的な秩序と習慣を守る。」<sup>22</sup> 政治的な闘争の中で設立された協会もあった。神父によって1840年に再興され、教会の時計や聖セバスティアン像が協会に寄附された<sup>23</sup>。文化闘争で同胞団の名称が使えないため、神父によりカトリック側を支援するために発案されたのが、射撃協会という名称である<sup>24</sup>。

しかし、カトリック教会側はかならずしも射撃団に好意的ではなかった。静粛に行うべき宗教行事には騒々しい射撃団は不適切だと考えられた。1826年に司教が射手による聖体祭の供を禁止する<sup>25</sup>。この例は19世紀前半であるが、文化闘争は19世紀の後半であり、そのためカトリック教会が射撃同胞団により積極的に関与した。

#### 4.1.3. 政治的

政治的な目的としては、市民が国防のための訓練、警察などに協力し、内乱を防ぎ、革命を封鎖する<sup>26</sup>、あるいは援助することであった。ドイツの全国的な射手連合にはドイツ統一を目的として掲げるあるいはそれをきっかけに設立した協会があった<sup>27</sup>。1848年の革命が失敗に終わったので、それに関する記述はそれほど多くはなく、当時、町の平穏を守ったように触れら

---

20 Gymnich, Breyell-Natt, Ramsbeck

21 Immerath, Rödigen

22 Kaldenkirchen

23 Inden/Altdorf

24 Hoengen, Breinig

25 Ahrweiler, Inden

26 Brückenau, Nordhausen

27 Leipzig, Korschbroich, Bettenhausen, Rüsselsheim (Hessen)

れている。射撃は遊びのためだけではなく、国防のためでも行うべきとされている。国防の考えは特にバイエルン王国に強く、王政府の射撃会則見本の中にこの目的が第一条として記載された<sup>28</sup>。19世紀後半のバイエルン王国では「国王、憲法、母国に対する愛着を育てる。」<sup>29</sup>という条文が憲法に入れられていた。ウェストファーレン州は防衛力として求められなかったので、こうした記述はほとんどなかった<sup>30</sup>。

#### 4.1.4. スポーツ

ゲーセケ市の射撃協会の19世紀と21世紀の間の一つの大きな違いがスポーツ射撃の観点である。19世紀の会則に「鳥射撃」といわれ、ゲームに近い感覚で行われていた。それに対して、現在はスポーツ射撃が同胞団の活動の大きな割合を占めている。19世紀後半からドイツ帝国が軍事国家になった影響もあるが、今はスポーツが重要なレジャーとして認められていることから、銃規制が厳しいドイツでスポーツ射撃は銃を所有して扱うための正統な理由となっている。銃に憧れる若者がそのために射撃協会に入会し、はじめは仕方なくその伝統的な行事に参加していたのが、徐々にそれがその人のアイデンティティの一部となっていると思われる。スポーツという概念が今ほどなかった19世紀にも、射撃の演習を目的とした射撃団があった。その場合は射撃所の運営、射撃の練習が主な目的であった<sup>31</sup>。練習だけではなく会員同士の親睦も目的とされた。

それに反対して「俗っぽい体操や合唱、射撃協会の列に並ぶ」<sup>32</sup>ことを批判する伝統的な射撃団もあった。しかし伝統的な射撃団から射撃中心の協会に行く人もいた<sup>33</sup>。

制服が一般的な礼服から猟師の私服へと変化したことも意識変化を語る。古い鉄砲の禁止と新しい銃への更新は射撃の効率化への変更を示す<sup>34</sup>。

スポーツ射撃に重点を置いていることは、射撃所の建設からも判断することができる<sup>35</sup>。設立後、すぐ射撃所が作られたのであれば、射撃練習に重心があり<sup>36</sup>、協会設立から射撃場の建設までに長い年月がかかったのであれば<sup>37</sup>、協会設立時には射撃は主な目的ではなかったと判

28 Memmingen, Bamberg

29 Bamberg

30 例外として、会則ではなく、財務大臣への手紙の中で「母国の防衛者を育てる」という文言があった。Schnallenberg

31 Beelitz, Bamberg, Xanten

32 Ahrweiler

33 Dülken-Nord

34 Aachen-Laurensburg: 1897年から空気銃射撃、1907年に新しい会則、1913年鉄砲禁止された。

35 動きにくい服から動きやすい制服への変更もスポーツ射撃への意識変更を語っている1857年に制服が黒燕尾服から緑の漁師服に代えた。(Ahrweiler) しかしほとんどの協会のHPに明確に変更の年が記述していない。

36 Rüsselheim, Hann. Münden

37 Olpe 1828年に射撃のための土地を買い、1906・07年に射撃の家を立てた。1907年に初めて祭が新しい射撃ホールで行った。1908年にダンスルームができた。

断できる<sup>38</sup>。

#### 4.1.5. その他

射撃団が以前から、土地などを所有している場合、その所有物を管理するために社団法人の形をとらざるを得なかった<sup>39</sup>。

射撃祭の提案者にはレストランなどの経営者もいる。それを盛り上げることにより、売り上げ増加という狙いもあったと考えられる<sup>40</sup>。

協会設立の大きな理由は行政の指導である<sup>41</sup>。1859年に新国王によって、射撃団の取り締まりが強化されたので、多くの以前から存在した射撃団<sup>42</sup>はその年に公的な団体として設立（社団法人化）した<sup>43</sup>。政治的な意味はなく、ただ射撃の安全な運営のため、責任を明確にした協会を設立させた<sup>44</sup>。

その他の単純な理由には、周りの町村で射撃祭を行っているので、自分のところでもしたいというものもある。その場合、それが流行した理由は経済的な安定化による、社交の促進であったと思われる<sup>45</sup>。

#### 4.2. 幹部、理事会、総会、会員

ゲーセケ市の射撃協会では幹部、理事会、総会との関係において変化を会則で見ることができた。19世紀には会員が投票権を持ったが、権力は理事会に集中していた。幹部は法的な面で協会の代表であるが、理事会の発言力が強かった。それに対して、21世紀には幹部が事務局長で補強され、単独で運営を行うようになり、理事会は顧問的な存在になった。それに対して総会の立場が強化され、また1人1人の会員の権限（除籍に対する措置など）が強化された。

伝統的に前年の射撃王と士官が射撃団の指導者であった<sup>46</sup>。士官職は一定期間ごとにオークションにかけられたこともある。それにより士官たちの祭りの際の飲食が無料になった。このお金は射撃団の運営にもつかわれた<sup>47</sup>。任期は多くの場合2－3年間であった<sup>48</sup>。しがらみを避

---

38 Dülmen Breyell-Natt Wülfter Thülen

39 Augsburg, Neheim

40 Rüsselheim

41 Störmede

42 ネット検索で確認した同じ1859年に設立した射撃協会 Leiferde, Westereiden, Eikeloh, Ober-Ingelheim, Völlinghausen, Glind, Kommern, Mönnninghausen/Bönninghausen, Dedinghausen, Schweimke, Altenmellrich, Quakenbrück, Freckenhorst, Höhr, Bollstedt, Maxhütte, Hemmern, Niederwerth, Eitorf, Spitzkunnersdorf, Buchen/Odenw., Schirgiswalde, Regenstau, Niederwerth, Hohenleuben

43 Neheim

44 Wülfter

45 Kaldenkirchen

46 Dülken-Nord

47 Immerrath, Oynhausen

48 Gymnich, Gerderath, Serkenrode, Nordhausen



けるため、流動的な措置が導入された。例えば、2人の同朋師がいると、その中の1人が当事者、2人目は見習いとなり、1年後1人目が役職から離れ、2人目が当事者となって、他の人が第2の同朋師となった<sup>49</sup>。すべての役職は1年ごとに総会で信認を問うた。他には主席を監視する理事会を毎年、入れ替えるところもあった<sup>50</sup>。20世紀に見られる幹部、理事会、総会の三つの組織は19世紀においては、それほど明確ではなかった。一つ目のタイプでは毎年の選挙により、総会が決定権を持ち、総会が重要な活動のすべてを決めていた。二つ目のタイプでは理事会が要件を決め、総会が理事たちを選ぶ際、理事会に王も含まれた<sup>51</sup>。

警察署が監視員（元陸軍予備軍の士官）を任命する。三つ目のタイプでは幹部ができて、理事会が狭い範囲（会計）でのチェック機能を果たしたが、総会は役員の選挙しか発言力がなかった<sup>52</sup>。実際は、上記の典型的な形式以外に中間的な形のものもあった<sup>53</sup>。幹部の会計報告は総会あるいは長老（7－8人）の集まりで行われた<sup>54</sup>。長老は理事会ほど、固定していなかった。士官は入会年間で投票で決める。司令官は軍曹と旗手を決めた<sup>55</sup>。

法律上、1人の外部・行政向きの責任者が求められたので、社団法人化と共に幹部体制が増えてきた。幹部に会長（軍事的名称として中尉あるいは少尉が多く使われた<sup>56</sup>）と会長の他に副官1－2人がいた。それ以外に会計係が必要であり<sup>57</sup>、場合によって書記係が設置された。それ以外の士官は射撃祭の運営あるいは安全な射撃を監督した。彼らは毎年、幹部から任命され、あるいは一定期間のために総会で選ばれた<sup>58</sup>。バイエルン王国の特徴は行政に任命された監視委員（Kommissar）がいることであり、彼らは協会内部に設置された監視役であった。幹部と総会の間に理事会は設置されていなかった<sup>59</sup>。

会計または協会の財産の売却、借金に対するチェック体制は非常に厳しかった。幹部・理事会は総会の事前の許可が無い場合、使う金額が定められていた<sup>60</sup>。射撃中心の協会は的中を確認し、記録する従業員、射撃所の管理人などを雇った<sup>61</sup>。

町中のパレード（行進）が射撃祭の重要な要素であるので、軍曹を置くことが多かった。

入会は総会、会員の投票あるいは理事会で決めた。除籍もまた同じように決定された。会は

49 Breyell-Natt, Augsburg, バイエルン王国1868年、Brückenau すべての役職1年ごとの総会の信認を問うた。

50 Hemern, Gymnich, Serkenrode, Bamberg くじ引きで理事を交代させる。

51 Xanten, Thülen

52 Breyell-Natt, Ahrweiler, Dülken-Nord

53 ギュムニヒで会長が3＋10年任期、理事が2年任期であった。

54 Rödingen

55 Beelitz

56 フリーソイテで理事会と1人の大将であった。その逆に Oberforstbach は軍事的な名称を廃止した。軍国主義といわれた時代背景の前に珍しい決断であった。

57 イメラートでは「寄附師」がいた。

58 Schnallenberg, Rüsselsheim

59 Memmingen 1841年、バイエルン王国 1868年。1908年の帝国社団法にはこの条件は全国的に制定された。

60 Nordhausen, Augsburg

61 Münden



それに対して警察署と郡長に不服申し立てができた<sup>62</sup>。除籍の理由としては会費の滞納の他に不法な振舞、犯罪などがあった。

入会の権利がある住民とない住民が場合によって存在した。入会の権利がない住民と外部の人でも仮の会員として射撃祭に参加、または射撃所の利用ができた。会員に対する入会費と年会費、罰金制度が広く存在した。幹部と会員の間の大きな問題点は罰金制度である。法に依って罰金と除籍しかできなかった。罰金は射撃団の一つの重要な収入でもあった。19世紀にほとんどの射撃団には罰金制度があり、様々な行事で罰金を科した。珍しい項目としては舞踏会で女中と踊ったら罰金が発生するというものもあった<sup>63</sup>。しかし、1819年<sup>64</sup>と1897年の会則では罰則を廃止した<sup>65</sup>。

安全な射撃を確保することは幹部や士官の重要な任務であった。射撃中のアルコール類は禁止され<sup>66</sup>、装填した銃で射撃場を往復することは禁止された<sup>67</sup>。銃の装填のために担当者がいた<sup>68</sup>。銃が幹部に提供される<sup>69</sup>。射撃所の混乱と混雑を避けるために射撃基準があった。射撃順番、射撃と観客の場所などを決めた<sup>70</sup>。

その他に理事会などが会員の行儀よさの行動を監督しなければならなかった<sup>71</sup>。入会基準で「確かな人」という言い方が多かった<sup>72</sup>。メンミンゲン市の射撃団が会員を経験した射手と指導が要る若い射手に分けて、若手を養成した制度があった<sup>73</sup>。他の射撃団にはこのような養成体制があまりなかった。

#### 4.3. 射撃王の決定と役割

19世紀には二つのタイプの射撃王が見られる。一つ目は鳥的の王である。これは多くの場合に、町村の有力者であった。候補者同士の射撃が行われた。それ以外の射手は鳥の王冠を落とさないように注意され、射撃を監督する士官もそれに配慮した。射撃王になりたいが射撃ができない人の代わりに他の人が代行することもできた。射撃王の名誉と引き換えに、射手たちを持て成す義務があった。その負担は大きい場合もあり<sup>74</sup>、大金をつかっても、射手たちには不

---

62 Bayern 1868

63 フリーソイテで罰金が科せられていなかったが、会員が他所の女性とではなく、他の会員の娘だけと踊ることができた。会員は自分の娘が若い会員との出会いと望んで、これを決めたであろう。(Oeynhausen)

64 Dülken-Nord

65 Münden, Siegburg

66 Gerderath, Friesoythe, Schnallenberg, Stockum-Neuhaus, Serkenrode, Sassenberg, Oynhausen

67 Memmingen, Serkenrode, Sassenberg, Friesoythe

68 Oynhausen, Sassenberg

69 1860年 Sassenberg

70 Friesoythe

71 Thülen

72 Memmingen

73 Memmingen 1841年、バイエルンの1796年の規定

74 Lindlar

満があった<sup>75</sup>。そのため射撃王になりたくてもなれない人がいた。そこで射撃王の負担を制限するようになった。過度な持て成しを禁止するゲルデラートのような曖昧なルールから王は銀のプレートを王の飾りに用意した<sup>76</sup>。次年の鳥的的用意<sup>77</sup>、特定の持てなしが求められた<sup>78</sup>。他の方法は射撃王に賞品を上げたり、賞金を払ったり、射撃団は所有する王が土地を利用する権利を与えたり<sup>79</sup>、祭りの間舞踏会を開催して儲けるチャンスを与えたり<sup>80</sup>、射撃の参加費を射撃の成績の第1位と第2位の射手が分配したりすることもあった。

「身分の隔てなく皆が兄弟のようである。裕福でない人も頑張って射ち落して、それを証明しなさい。」<sup>81</sup>しかし「代表を務めることができない人が鳥を射ち落したらダメです。会員になって、代金を払うことが出来ても王になる価値がない人も多くいます。労働者と市民が入会費をはらって、祭りの前に王に決定されるのを見たくないのは分かります。」<sup>82</sup>

会員全員で負担するようになってから、王を町村の有力者から選ぶ必要がなくなった。鳥的が使われても、鳥の王冠が上に落ちた番号の人が王になった。番号は籤として売られている。運で、王が決められた<sup>83</sup>。有力者が優先されなかったので、誰でも王になるチャンスを与えられた。

次に二つ目のタイプの射撃王である。木でできている鳥の部分射落とするのではなく、的で正確さを競い合うようになった。例えば、最も良い射手は射撃王、2位と3位は射撃騎士であった。王は10ターレル、2位は2ターレル、3位は1ターレルの賞金をもらい、射撃祭で飲食が無料となる<sup>84</sup>。王などの負担を残しながら1853年に的射撃、各村2時間、各土地1発、参加費の半分は王、半分は第2である旗手がもらい、王は的見、旗手は音楽団指揮者に支払わなければならない。1892年には参加費の他に参加者は音楽隊のための金が必要となった。銃の利用25プフェニヒ、自前の銃10プフェニヒ、廷臣の女性は王から6マルクをもらう。自然の昼食は王が払うが、参加者（理事と音楽家以外）が50プフェニヒを払う。王が理事と音楽家の午後のコーヒを提供した。旗手は的見担当者と幹部のコーヒ代を支払う<sup>85</sup>。

19世紀には射撃王が射撃団の代表であったが、19世紀になってからは、形骸化していき<sup>86</sup>、行政の求めに応じて、理事会などで安定した運営が行われた。射撃王の射撃団の長としての権力とスポンサーとしての権威はかなり縮小したが、その疑似的な権威は拡張された<sup>87</sup>。女性たち

75 Ahrweiler

76 Aachen-Laurensburg, Dülken-Nord, Stockum-Neuhaus

77 Serkenrode, Olpe

78 Gerderath

79 Gymnich

80 Breyell-Natt

81 Lindlar 1843年のスピーチ

82 Lindlar 1905年に記事

83 Gymnich

84 Beelitz, Oynhausen

85 Breckerfeld

86 Olpe

87 Breberen, Thülen

は射撃王の女王となり、それに廷臣・女官が集まった。19世紀半ばから後半には地方でも、町民に少し金銭的な余裕ができたことから、女性たちが女王や女官として着飾って、祭りに出ることができた。射撃団が男性の集団から徐々に家族を巻き込む協会に変身した。

## 5. 終わりに代えて

多くの射撃団が19世紀に設立された。しかし以前からあった射撃団の名残から、地方の身分体制に関する部分も残った。しかし、19世紀に国民の平等、団結、強化が掲げられたことで、射撃団は徐々に平等となり、射撃王になれるチャンスを誰にでも与える組織に変わった。法の制定、安全と平穏を保つための行政の関与によって、社団法人化が勧められ、幹部の立場が強化された。その幹部達は権限を振るう代わりに、協会の運営において献身的に働いた。それに替わって、射撃王の実態は疑似的な象徴へと変化した。地域差が大きいですが、調査の中心地であるウェストファーレン州では宗教と親睦を中心とした活動からスポーツ射撃への緩やかな変化を見て取れる。会則を変更し、固定した射撃所を建設したことから、そのシフトが生じた様子が推察できる。

21世紀と19世紀の会則と射手規約を比較したゲーセケ市の協会・同胞団は古い要素を残している。伝統的な制服と踊り、儀式を維持しながら、青年と成人の射撃練習などを行っている。19世紀の会則には射撃王の権限の名残、新しく女性を取り込む体制や、社団法人として、会長と他の幹部の役割が重要になった点を窺うことができる。

各射撃団は法律と行政指導を受けながら独自の発展を成し遂げた。そのため明確な歴史的な軸をつくることができなかった。ネット上の記述に断片的な点が多かったのもその理由の一つである。

19世紀に行政官や町村の中流階級の住民が18世紀の射撃団の復活を唱え、昔の射撃団が所有した土地と権利を近代的な形に移転しようと射撃協会が試み、射撃協会が市当局から独立した。この発展を理解するために17世紀から18世紀までの射撃規約を研究する必要がある。他の19世紀の協会の発展と比較することもその世紀の社会生活と社会の変化を解明する有意義な方法であろう。

## 参考文献

19世紀、各町村が所属した国・州を括弧に記入する。

射撃協会の会則が載った史料（記載した会則の発行年を括弧に記入す）。

Augsburg アウグスブルク (Bayern) (1860) Statuen der vereinigten Stahlarmbrust & Handbogen-Schützen-Gesellschaft Schießgraben Augsburg [http://reader.digitale-sammlungen.de/de/fs1/object/display/bsb10378959\\_00001.html](http://reader.digitale-sammlungen.de/de/fs1/object/display/bsb10378959_00001.html) ダウンロード2017.9.19

Bamberg バンベルク (Bayern) (1868) Statuten der Schützen-Gesellschaft in Bamberg <http://reader.digitale-sammlungen.de/resolve/display/bsb10993365.html> ダウンロード2015.9.15

Bayrische Schützenordnung バイエルン射手規定1868年 <https://www.regierung.schwaben.bayern.de/wirfu->

- sie/Genehmigungen/Bereich\_1/Schuetzenverordnung.php ダウンロード2017.9.19
- Breckerfeld ブレックフェルト (Preussen/Westfalen) 1853年と1892年の会則 <http://www.bauernschuetzen-breckerfeld.de/aktuelle-satzung/satzung-von-1892.html> ダウンロード2015.9.19
- Breyell-Natt ブライエル・ナット (Preussen/Rheinpr.) 1845年と1860年、1883年の会則 <http://www.schuetzenparty.de/historie/> ダウンロード2017.9.19
- Brückenau プリュッケナウ (Bayern) 1848年の会則 Statuen der Schützengilde zu Brückenau Würzburg 1848 ダウンロード2015.9.15
- Friesoythe フリーソythe (Oldenburg) 1851年の会則 Cloppenburg, Ferdinand (1987) Das Friesoyther Schützenfest, Schützengilde der Stadt Friesoythe
- Geseke ゲーセケ (Preussen/Westfalen) 1858年の会則 <http://www.sankt-sebastianus.de/die-bruderschaft/geschichten-und-mehr/statuten-von-1859.html> ダウンロード2013.10.9
- Memmingen メッミゲン (Bayern) Steiner, G. (1841) Geschichtliche Darstellung über das Entstehen des Scharfschiessens überhaupt; einer Schützen-Gellschaft in Memmingen und ihre Verhältnisse bis Anno. Memmingen <https://books.google.co.jp/books?id=yZFCAAAAcAAJ&pg=PA8&lpg=PA8&dq=Scharfschiessen+Memmingen&source=bl&ots=r5DAbsGFwI&sig=0OIxj4ZuzGFzGck4QSII2GigvVU&hl=ja&sa=X&ved=0ahUKEwjGmumJ9eLWAhXExLwKHWGkBXQQ6AEILTAB#v=onepage&q=Scharfschiessen%20Memmingen&f=false> ダウンロード2015.9.15
- Oeynhausen オイエンハウゼン (Preussen/Westfaen) Reglement für die Schützengemeinschaft zu Oeynhausen [http://www.schuetzenverein-oynhaus.de/Satzung\\_von\\_1851.htm](http://www.schuetzenverein-oynhaus.de/Satzung_von_1851.htm) ダウンロード2014.10.11
- Neheim ネーハイム (Preussen/Westfalen) 1857年の会則 <https://www.fest-in-neheim.de/vergangenheit/bruderschaft/historie.html> ダウンロード2017.9.19
- Nordhausen ノルトハウゼン (Preussen/Sachsen) 1854年の会則 v. Förster S. (1856) Die Schützengilden und ihr Königsschießen Berlin [http://reader.digitale-sammlungen.de/de/fs1/object/display/bsb10431563\\_00005.html](http://reader.digitale-sammlungen.de/de/fs1/object/display/bsb10431563_00005.html) ダウンロード2013.7.12
- Sassenberg サッセンベルク (Preussen/Westfalen) 1860年の会則 <http://www.schuetzenverein.com/> ダウンロード2017.9.19

#### それ以外の射撃協会の歴史紹介

- Aachen-Laurenborg アーヘン・ラウレンブルク (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzen-laurensberg.de/> ダウンロード2017.9.19
- Bautzen バウツェン (Sachsen) <http://www.bautzener-schuetzenverein-1875ev.de/schuetzenartikel.html> ダウンロード
- Beelitz ベーリツ (Preussen/Brandenburg) Schneider, Carl (1888) Beelitzer Chronik p. 83-87 <http://daten.verwaltungsportal.de/dateien/dateien/beelitzer20chronik.pdf> ダウンロード 2014.7.10
- Bettenhausen ベッテンハウゼン (Hessen-Kassel) Frisch, Heinz (1957) Heimat- und Schützenfest Bettenhausen verbunden mit dem Kreisschützenfest <http://www.erinnerungen-im-netz.de/go/id/to> ダウンロード 2017.9.20
- Breberen ブレバーレン (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzen-breberen.de/index.php/bruderschaft/historie> ダウンロード2017.9.19
- Breinig ブライニング (Preussen/Rheinpr.) <http://www.st-seb-breinig.de/index.php/die-bruderschaft/historisches> ダウンロード2017.9.19
- Dülken-Nord デュウケン・ノルト (Preussen/Rheinpr.) <http://www.st-donatus-bruderschaft.de/index.php/geschichte/das-schuetzenregister> ダウンロード2017.9.19
- Dülmen (1951) Jubiläumsfestschrift 400 Jahre Bürgerschützenverein 1951

- Düren-Arnoldsweiler デュウレン・アルノルトスワイアー (Preussen/Rheinpr.) [http://arnoldusschuetzen.de//show/geschichte\\_19jahrhundert.php](http://arnoldusschuetzen.de//show/geschichte_19jahrhundert.php) ダウンロード2017.9.19
- Fredeburg フレーデブルク (Preussen/Westfalen) <http://www.schuetzenbruderschaft-fredeburg.de/web/schuetzenbruderschaft-fredeburg/index.php?tc=1506049067&groupId=1943> ダウンロード2017.9.20
- Gerderath ゲルデラート (Preussen/ Rheinpr.) <http://www.bruderschaft-gerderath.de/2.html> ダウンロード2017.9.19
- Gymnich ギュムニヒ (Preussen/Rheinpr.) <https://bruderschaftgymnich.de/die-bruderschaft/historisches> ダウンロード2015.9.15
- Hallenberg ハッエンベルク (Preussen/Westfalen) [http://www.schuetzengesellschaft-hallenberg.de/index.php?option=com\\_content&view=article&id=20&Itemid=4](http://www.schuetzengesellschaft-hallenberg.de/index.php?option=com_content&view=article&id=20&Itemid=4) ダウンロード2017.9.19
- Hemmern ヘッメルン (Preussen/Westfalen) <http://www.hemmern.de/index.php/geschichteschuetzenvereinm> ダウンロード2017.9.20
- Hoengen ホンゲン (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzenverein-hoengen.de/Verein/Chronik> ダウンロード2017.9.19
- Hülhoven-Grebben ヒュルホーヴェン・グレーベン (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzen-grebben.de/chronik.html> ダウンロード2017.9.19
- Immerath イメラート (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzenbruderschaft-immerath.de/> ダウンロード2017.9.19
- Inden/Altdorf インデン・アルトドルフ (Preussen/Rheinpr.) [http://www.schuetzen-online.de/cms/front\\_content.php?idcat=37](http://www.schuetzen-online.de/cms/front_content.php?idcat=37) ダウンロード2017.9.19
- Kaldenkirchen カルデンキルヘン (Preussen/Rheinpr.) <http://www.ljb-kaldenkirchen.de/geschichte.html> ダウンロード2017.9.19
- Korschenbroich コルシェンブロヒュ (Preussen/Rheinpr.) <http://www.unges-pengste.de/st-sebastianus-bruderschaft-korschenbroich/geschichte.html> ダウンロード2017.9.19
- Kreuzau クロイツァウ (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzen-kreuzau.de/> ダウンロード2017.9.19
- Leipzig ライプツィヒ (Sachsen) Die Leipziger Schützen-Gesellschaft Leipzig 1893 [https://books.google.co.jp/books?id=lroUAAAAYAAJ&printsec=frontcover&dq=Leipzig+Schuetzen&hl=ja&sa=X&redir\\_esc=y#v=onepage&q&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=lroUAAAAYAAJ&printsec=frontcover&dq=Leipzig+Schuetzen&hl=ja&sa=X&redir_esc=y#v=onepage&q&f=false) ダウンロード2017.9.20
- Lindlar リントラー Müller, Erwin/Höller Hans-Ulrich (2015) Das Lindlarer Schützenwesen <http://www.schuetzenverein-lindlar.de/Chronik> ダウンロード2017.9.19
- Merzenich メルツェニヒ <http://www.schuetzen-merzenich.de/index.php?id=98> ダウンロード2017.9.19
- Oberforstbach オーバフォルストバハ (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzen-oberforstbach.de/> ダウンロード2017.9.19
- Olpe オルペ (Preussen/Westfalen) <https://www.schuetzenverein-olpe.de/verein/geschichte/> ダウンロード2017.9.20
- Paderborn パダーボルン (Preussen/Westfalen) <http://www.pbsv.de/10-Geschichte.html> ダウンロード2017.9.20
- Puffendorf プフェンドルフ (Preussen/ Rheinpr.) <https://www.schuetzen-puffendorf.de/vereinsgeschichte/> ダウンロード2017.9.19
- Ramsbeck ラムスベック (Preussen/Westfalen) <http://www.schuetzenbruderschaft-ramsbeck.de/geschichte.html> ダウンロード2017.9.20
- Rödingen レーディングエン (Preussen/Rheinprovinz ) <http://www.schuetzen-roedingen.de/> ダウンロード2017.9.19
- Rösebeck レースベック (Preussen/Westfalen) <http://www.roesebeck.net/index.php/vereine-co/schuet>

- zenverein/geschichte-der-schuetzen ダウンロード2017.9.20
- Rüsselheim (Hessen-Darmstadt) [http://www.sv1862ruesselsheim.de/assets/images/Chronik\\_Teil\\_1.png](http://www.sv1862ruesselsheim.de/assets/images/Chronik_Teil_1.png)  
ダウンロード2017.9.20
- Schnallenberg シュナッレンベルク (Preussen/Westfalen) <http://www.schuetzengesellschaft-schmallenberg.de/index.php/schuetzenwesen/chronik> ダウンロード2017.9.20
- Schleckheim シュレクハイム (Preussen/ Rheinprovinz) 1840年に設立 <http://www.schleckheim.de/historie.html> ダウンロード2017.9.19
- Serkenrode セルケンローデ (Preussen/Westfalen) Vereinsgeschichte der St. Johannes Schützenbruderschaft Serkenrode 1818 e.V. von Alfons Henke <https://www.schuetzenverein-serkenrode.de/geschichte/> ダウンロード2017.9.20
- Siegburg シークブルク (Preussen/Rheinpr.) Festschrift zur 400 Jahrfeier des Siegburger Schützenvereins am 19. 25. 26. u. 27. Juli 1914
- Stockum-Neuhaus シュトックム・ノイハウス (Preussen/Westfalen) <http://www.st-jakobus-stockum-neuhaus.de/> ダウンロード2017.9.20
- Störmede シュテルメデ (Preussen/Westfalen) <https://sankt-pankratius-schuetzenbruderschaft.de/service/geschichte/geschichtliche-entwicklung-des-schuetzenwesens-walter-wahle/> ダウンロード2017.9.20
- Wülfe ウィルフテ (Preussen/Westfalen) 1846年の射撃祭申請に会則の制定、1892年改定 <http://www.schuetzen-wuelte.de/> ダウンロード2017.9.20
- Xanten クサンテン (Preussen/Rheinpr.) <http://www.schuetzengesellschaft-xanten.de/> ダウンロード2015.9.15